

令和4年度・研修部会①「福祉ハウス コットンハウスの取り組み」現状と課題 に関するアンケート結果です。参加者にご記入いただいた内容を集約しております。また、特定の個人様が特定されないように、ご記入者名は省略させて頂きました。

1. 自分の子どものこれからの暮らし、生活の場、体調の変化、とても不安があります。
コットンハウスでの取り組みの事例を聞いて、今後のことを真剣に考えていきたいと思いました。
2. 本人・家族に寄りそって下さるスタッフさん達に感動しています。
変化する障害の状態に対応していく事の大変さを思うと、頑張っておられると思いました。
この様な、お話を事業所の方も聞いてもらえると良いと思いました。
3. 自分自身の人生をふりかえりながら、お話をおききました。
報告書、講演は、感動という言葉では語る事ができない、大きな大きな感動と学びと感じています。毎日の日々の中で、目の前の実際とともに生き、生活している生活者の方々とおきあい、あゆみ、悩み一つひとつの困難とともにおきあい、のりこえ、"生命"とおきあい、日々をともにあゆんでおられるお話、これからをどうあゆんでいくか、つよく考えております。
4. 勉強になりました。これから、先のこと、在宅で、ずっと暮らせるような支援を考えていきたい。
コットンハウスの方たちが、スタッフをふくめて、安心してケアができ、うけられるように、医療の支援を受けるためにはどうすればよいか、それが、私たちの子どものためにもつながるので、一緒に考えたい。
在宅のくらしの調査を実施したといわれていたように思いました。また、機会があれば聞いてみたいです。
5. 障害があるからできないではなく、やってみよう! やりたい! という気持ちを大切に、形にすることができるよう支援していくことの大切さを伝えていきたいと思います。ありがとうございました。
6. 考えさせられる内容でした。ぼくも、だんだんと、二次しょうがいも、出て来ているし、両親も年をとってきているので、なやむ事ばかりです。なので、これからどうすればいいのかという話も聞きたいです。
7. 障害のある人が高齢化に伴い直面する問題
・和子さんと医療→人工透析に至ってから、その後の事例
・事例きしこさんとの係り、大変感慨深い課題である。
8. きしこさんのお話をきいて、とても勉強になりました。娘と重なるところも考えると、今の生活でいいのか、何もしてないと思いました。実年齢+20歳には、ジーンとくるものがありました。きしこさんに、よろしくお伝えください。ありがとうございました。

9. 正直「たんぽぽの家」は名前としては知っていましたが、奈良市と距離がある事とうちの娘は医療的ケアが必要だったので、今まで特に興味はありませんでした(すみません)。今日、内山さんのお話を聞いて、大変色々な事があっての事だったと痛感しました。ありがとうございました。
10. その人らしく生きる、がモットーですが、うちの息子は40歳台で、施設におまかせしている状態です。両親も70代、元気ですが介護保険サービスをお願いする現状に近づいて来ている年です。又、息子も、介護保険サービスの事も考えて行かなければと、新ためて考えさせられた。今は、医療的ケアが必要ではないですが、将来、医療的ケアができる介護士のお世話が必要となると思います。ぜひ声を大きくして、介護士(医療的ケアができる)を実現して行ってもらいたいものです。
11. ていねいな支援をされている様子を伺うことができ感動しました。人の一生、老いていく過程を支えていくということの重みを感じています。私は障害者の家族ではありませんが、25年つきあっている脳性まひの友人の顔が、ずっと浮かんでいました。同じ年齢ですが、プラス20才ということ考えると、彼女をどう支えていくか、現実をきちんと受けとめなければという思いをひしひしと感じています。ありがとうございました。
12. わが家は、娘が30代、親が(母)70代に入り、このままやっていけるかの心配の中、おはなし、よくわかりました。「自分らしく生きる」ことを願う時、どうしていけばよいのかの課題が大きく、それを援助してくれるところがあるのかも課題です。少しずつ考えながら、みえたことからすすんでいこうと思っています。又、いろいろ助けてほしいです。
13. 本人の高齢化、親の高齢化は、本当に大きな課題となっているので、いろいろとお話を聞けて良かったと思います。
14. 本人の意思確認が取れないため、尚、むずかしいと感じました。
15. 息子が成長するにつれて、本人の将来について、両親が面倒を見れなくなった時の事を考えることが多くなってきました。内山様のお話をうかがい、単純にグループホームや施設入所等、住む場所を見つけるだけでは、だめであると感じました。本人達が、生き生き生活をできるように(誰もが切なる願いですが...)親に出来る事を考えなければと思いました。
16. ようやく学校を卒業したところなので、初めて聞くことばかりで、今日は「これから」について考えるきっかけになりました。
17. グループホームでの生活が、どう変わっていくのかよくわかりました。変わる中で、スタッフの方々の努力を知り、頭が下がる思いです。娘の将来に不安を感じていましたが、なんとなく、今から整えていくべきことが、見えた気がします。

18. きし子さんは、前から知っています。コットンハウスに入所されたことも知っていました。色々な病気をされて大変だったのだなあ、でも、みなさんに大事に介護してもらって、生活しておられ、良かったと思いました。看護師さんがおられないのが大変かなあと感じました。
19. いつか私たち家族が直面する問題なので、とても興味深く、わかりやすい内容でした。何より、内山さんが入居されている方への愛情や尊敬、尊重される気持ちが伝わってきて、入居されている方は幸せだろうと感じました。
20. コットンハウスで生活されている方々は幸せだなと思いました。きし子さんのお話をきかせて頂き、ご本人はもちろんのこと、支え続けられているスタッフの皆様は本当にすごいですね！家族以上の家族ですね。こういう施設を県内にひとつでも多く増やしていきたいですね！
21. 子供も来年は 40 才になりますので、内山さんの話は心にスーと入ってきました。福祉に携わる方の離職率は本当に高いです。気持ちよく働いてもらえる環境にする事は利用されている(ご本人)方の生活の質にもつながる様に思います。現在は数十年前の福祉とは比べものにはなりません、まだまだ変化が必要です。行政、福祉の専門職の方々、更に親の力が必要だと感じました。
22. 年を重ねて行く事で考えられる変化などで起こる問題が少しわかったように思えます。65 才からの介護保険サービスへの移行についての話も聞くことが出来たらと思います。
23. 福祉ホームという初めての住まいを知り、見学させてもらって、ついこの前のことのように思うのに、もう、24 年も経たということにびっくりしています。私の子供も 50 前になり、改めて年がいくということ、2 次障害等の話を具体的に聞かせていただいて、とても勉強になりました。その時にあわてないように、今から支援者の人も巻きこんで考えていこうと思っています。ありがとうございました。
24. 親の高齢化、本人の二次障害、重度化等、同様の悩みがあるにもかかわらず、大変頑張られている事に前向きに考えさせられました。